

## 第3期経営改革実施計画書

団体名	公益財団法人金沢子ども科学財団		計画期間	2019年度 ～ 2023年度	
設立年月日	平成12年12月27日	基本財産	30,000 千円	市出資額	30,000 千円
	[新公益法人への移行] 平成23年4月1日			市出資割合	100 %
設立意義・経緯	金沢市が児童生徒の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的とした財団として平成12年に設立。平成23年に公益財団法人へ移行した。				
設立目的	この法人は、金沢市に在住する児童生徒等の課外における科学的な活動などを支援するとともに、その普及・発展に努め、科学の心を育むことを目的とする。				
定款で定める公益目的事業等	(1) 児童生徒等を対象にした課外での科学に関する活動 (2) 児童生徒等の科学の心を育てるための普及啓発活動 (3) 科学に関する諸団体や国内外の児童生徒等との交流活動 (4) その他公益目的を達成するために必要な事業				
所在地	金沢市長町3丁目3番3号		所管課	教育委員会学校指導課	
代表者職氏名	理事長 山崎 光悦	ホームページアドレス	<a href="https://kodomokagaku.or.jp/">https://kodomokagaku.or.jp/</a>		
設立主体	金沢市	設立根拠	公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づく公益財団法人		

これまでの改革の成果	1 事業面 (1) 事業の充実 ①新規事業の実施 サイエンスミッション及びSSH(スーパーサイエンスハイスクール)教室の実施(H27～)、 ②事業内容の充実 算数チャレンジクラブで外部から大学教授を招聘し、特別全体講座を実施(H27～) 数学チャレンジクラブで特別事業としてSGH(スーパーグローバルハイスクール)教室を実施(H27～) 広坂子ども科学スタジオ10周年記念オープンスタジオの実施(H28) (2) 広報の見直し フェイスブックによる広報(H25～) (3) 全国展入賞者の輩出 自然科学観察コンクール(H22～)、 日本学生科学賞(H20～)、全国児童才能開発コンテスト(H20～)
	2 運営面 (1) 外部団体との新たな事業連携 (公財)宗桂会(H24～)、金沢大学附属高校及び石川県立泉丘高校(H27～)、 (公財)中部科学技術センター(H30～) 3 財務面 (1) 財団保有基金の安定的な運営 ①外部団体助成金の積極的な獲得、財団保有基金(北嶋基金)取崩計画の延長(10年→15年) ②参加料収入の見直し ジュニア科学者育成講座(長期)及び算数、数学チャレンジクラブの年会費等値上げ(H24)
直面する課題	1 事業面 (1) 事務局及び講座開催場所の移転に伴う、事業環境の変化による参加者数等への影響(駐車場の確保) (2) 講座開催場所が金沢市長土堀青少年交流センターに集約されることによる講座内容の見直し (3) 算数オリンピックや全国展等での入賞者の増 2 運営面 (1) 運営体制の一層の強化 3 財務面 (1) 15年計画で基金(自己財源)を取り崩して開催していた特別事業が、基金取崩終了となることに伴う事業継続のための新たな財源の継続的な確保(計画は2020年度で終了)

改革の基本的方向性	科学の心を育み未来の科学者を育てる事業を継続実施し、より積極的な広報活動を通じて財団の運営理念を発信することで、より市民に愛され支持され続ける財団を目指す。			
経営目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加者増加と未来の科学者育成強化 事業内容の見直しや広報の充実により参加者の増加を図るほか、全国展等でのさらなる入賞者を輩出するために、未来の科学者の育成に向けた事業の充実・強化</li> <li>2 運営体制の強化 外部団体との連携拡大等による、効率的かつ効果的な運営</li> <li>3 財団経営の安定性確保 継続的な財団運営を図るために、収入の見直しや外部団体助成金の獲得などを実施するとともに、寄附金の積極的な受入れなどによる財源の確保</li> </ol>			
改革に向けた取組 (2019年度～2023年度)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 参加者増加と未来の科学者育成強化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 外部団体との共同事業を積極的に行うなど事業活性化の促進と併せ、参加者からのアンケート等に基づく事業改善や、参加申込における受付体制の利便性を図り、参加者増加につなげる。</li> <li>(2) 広報誌の内容見直しや事業案内チラシの発行数増加など広報の質・量両面で見直しを進めるとともに、WEBやフェイスブックなど電子媒体での情報発信体制の強化を図る。</li> <li>(3) 全国展の入賞者増や算数オリンピックでの入賞者輩出となるよう特別事業における手法の充実・強化を進めるほか、未就学児から中学生までの10年間で科学的素養育成を見据えた事業展開を検討する。</li> </ol> </li> <li>2 運営体制の強化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ボランティア等の積極的な活用を図るほか、事業の共催・後援などにより、多くの外部団体と連携する。</li> </ol> </li> <li>3 財団経営の安定性確保 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市からの補助金に加え、運営の趣旨に合った外部補助金を確保することで、基金取崩により実施している特別事業が基金取崩終了後も継続実施できるようにするために、新たな助成金の獲得に努める。</li> <li>(2) 寄附金税控除制度の積極的な情報宣伝を行い、寄附金の獲得に努める。</li> </ol> </li> </ol>			
成果指標 (実施計画の達成度を測るための指標)及び目標値等	成果指標	計画策定時数値 (2018年度末)	計画目標値 (2023年度末)	
	の参加者増加と強化	教育事業参加者の増	8,424人	9,000人
		外部団体との連携	12団体	15団体
		全国展入賞者及び算数オリンピック入賞者増	全国展 4名 算数オリンピック 0名	全国展 5名 算数オリンピック 2名
	財団経営の安定性確保	外部補助金等の獲得	1,057,594円	2,000,000円
		寄附金の獲得	40,000円	50,000円